

阮裕親筆

5
1826



5
1826

親書



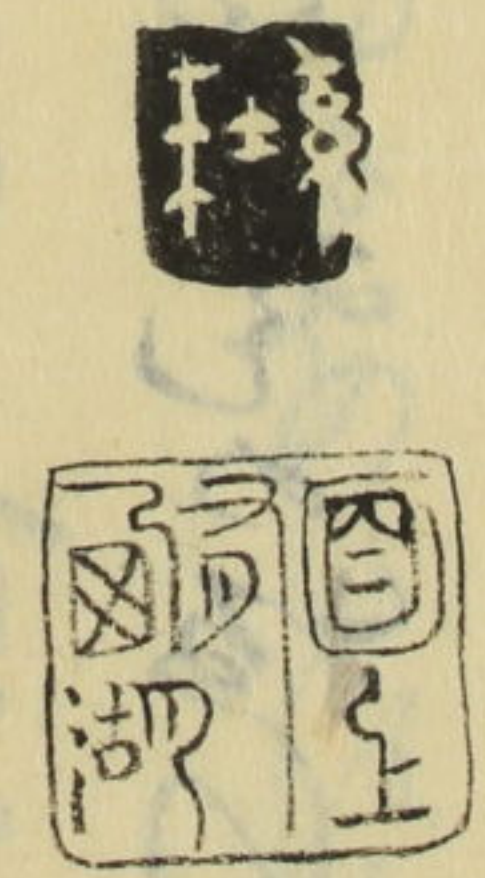
黄門宣家口中將爲家名を黄門乃
由歌歌洋考一なりて将を乃種
る事と想ひのん部と語ふ
折々各句とと、中々あつて云ふ
及ぶ部と事と地帯と一
詠が一一と云ふもあつた

ちりも先づ今の世儀と看ゆ
識の時梅いふ事も發明書あり
とく、家松をききしるも聴ん
月子居日子居お場と云へ向の
暖簾知りてしるも先づ一日
閑談を一人高流の俳諧といふ
筆をとりてしるも先づ一日
世に之知るは傳へし師範
等しく到門者ありし事あり
筆をとりてしるも先づ一日
吉野しるも先づ一日
中興乃閑師芭蕉翁其南沾徳

吾等の教も亦の作若かりし
づも自然と眼力見えしと古書と
求て自己の句は也一哲と云ふ人
多し是は下蘇と流しし一類は
魚一也してふあはあはるを
手連て必かくのよ一貪ら中

垣の族、倭賊と傳つるを年一
糧は宗函乃系國新定め極のきり
己、世渡りして其血脈既毒入
他は背犯し胡海の書りし也
業のりきを有のくはりては款
仙の指し許とも久乃深新

止ぬ唯を直は行ゆる代不
 當少て終る三神の真由
 かりと約朝齋沾洲六十
 五の書之



第一

字をいさやまきけうの玉手管沾洲
 懐古根よりつらに春成屋
 美並に休乃別も昔更く水園
 今年号ハ讀みてこそあま乾什
 ある方の後よりて揃の月百洲
 結しむるにんころ

中喜
 輪
 壺
 月

秋の菊も実秋振尾常仙
 かりしと後ふみ流事尾谷
 夜衣より花より先りり也乾什
 神もあはれ作は色秋法洲
 新水ははたきあんとうわろ成屋
 兼河を乃 豆腐 白 附 石海
 是もあはれ一借り流 精を日 毒月
 二人 をつてそこの橋 中月 常仙

角の尾 静ふ去乃 海さい 姉り 尾谷
 五十の秋 書 就 流 水 團
 三つ一 初とせう 秋 細工 毒 壺 月
 不流りくと 梅 中ふ 秋 乾 什
 世中 水 振らとあり 流 箱子の 百 洲
 百とあふと ありき 流 毒 尾 谷
 本 綿 織 忠の 城下 志流 乾 什
 又人 中への 桶 身 みに 成 屋

白尾 新着ハ 叢書 たり さくそ 沽洲
隣と入新 陸の ち ち ち ち ち ち
を神 子 禱と 心 心 心 心 心 心
胡 羅 蘭 中 新 騰 毛 山 臺 月
凡そ 三 月 八 日 本 の 聖 蹟 三 地 掛 じ 尾 五
三 由 家 指 の 日 に や 日 手 新 嶺 沽 洲
枕 香 の 類 一 二 三 四 五 七 九 寸 成 屋
理 屋 の 多 い 人 も 結 ぶ 百 洲

畫 所 々 々 教 じ は り ね ぬ 婆 々 門 々 々 國
雞 の 立 均 一 物 出 じ じ じ 々 常 一 他
ま ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
多 人 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ま の 戸 如 佛 借 ち ち 入 ち ち ち 沽 什 々
三 月 三 日 承 續 ぐ 八 的 成 屋

第二

鳴鶴いそや帯一

成屋

机あゝ馬記あゝ乃まか

常仙

養屋さわ竹の秋

壺月

四門さゝい藤る

百洲

砂原へ藤打ちけく

尾谷

俵へつゝれそ

乾什

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

日本一の花師觸り少屋並に泊洲
あひ乃神虫も守 朝日水國
意と扱はるるも幸 三人の中考他
二百の枕ととくととく毒月
多薬師のり業研 石やくし百海
ありぬるまじく糸又紙呼泊洲
るるおしり浮入月さふ入乾什
一羽飛船鳥乃唐極成屋

初月一を親類の生田と名圖
あまのり名の業の喜いの尾為
必第と下着就店と名と東百洲
難知合と於本陣の前考他
粉⁺ら海富士就結して海と心
いゝるお船と扱とと揮と心名國
長口就指人もかく勾引の
孫ととつ浦とまくの及右乾什

通 賦 出 々 友 友 と 争 ふ 鳥 雀 盡 月
赤 い あり あり 三 千 の 虎 徒 百 洲
袖 口 へ 伸 べ り と ぬ ぬ 麻 帽 子 尾 首
身 形 元 も 々 々 乃 醜 志 度 の 登 成 屋
ほ ぐ と ぐ ぬ 勢 勢 炎 法 茶 賣 考 他
鶴 函 蓮 を 焙 煎 大 寺 治 洲
手 形 他 々 喜 ぶ ち 々 々 梅 の 月 名 國
元 級 上 等 七 体 坊 の 物 來 盡 月

裁 け 々 歌 と 々 々 々 西 明 乾 什
菽 々 々 々 々 従 々 々 々 陸 成 屋
外 乃 蓮 摩 と 人 々 々 々 百 洲
身 形 之 後 と 横 ぬ 釜 壇 考 他
踏 書 と 美 筆 畫 一 卷 四 々 治 洲
幅 々 々 々 々 々 々 々 々 々 尾 首

第三

蝶鳥如逢也る夜ありにけり水園

難航あり小井戸の試尾谷

以路く乃善法よる者つとて乾什

幸あるま一人朝人かを成屋

炊熾のほまもあれりは又かみ月壺月

権も銀者もうらなを波泊洲

少
行定名各へみ也る籍山寺 百海
我之家々々は悪く、世
式書に結るれも、小道具屋 尾首
伴務や尾流とて、や里事記敷 各國
女子乃咄ん親より、何れけり 成屋
付本の尻張又して、此屋 乾什
賣標貝へ、笈乃る、河嗣とて、考他
集の帳物とて、牛ハ、生りて 壹月

炎天如辛味とて、れぬ隠れ里 沾洲
光於屏風に、聲に、何て、聞く 百洲
外郎の息を、吹うけ、善女、見 成屋
附う、く、ひ、寸、乃、目、斗、一、唱、尾、首
機欄第、其の、神、つ、わ、乃、胸、背、中、各、國
小判、多、度、て、世、を、う、あ、め、の、沾、洲
茄子、漬、ら、ら、出、さ、れ、は、赤、味、と、乾、什
新、い、飛、綿、の、湯、搦、う、と、心、考、他

来も結らり外さぬ婆か— 百海
忌日く— 一着とぬく 壺月
就立乃お疾く呼産院の地尾若
蕭いゆ— の節々 来るふ 各國
暑所の中へ 蓋子乃じさき 沽洲
女危やん せうけり 顔 威危
食盡い且 能月に見張ぬ せ 考他
出とて 掛ふ 橋も かの 紀 百海

土器へあ の 志と せむ— 乃 考
硝子 竈も さ 考 於 黄 昏 尾 若
母也— の 伯 父 子 二 子 あり ぶ 如 とも 國
敦 賀 乃 好 し ^織 たら 目 なる わ 字 あり 沽 洲
名 け 也 の ま じ き— 花 見 難 百 洲
ゆ かく 菜 の 葉 々 と けり 蝶 乾 付

牙四

薩摩乃里くくく四月の那 乾什

と船はくきくきくくく 鐘 百 洲

権と山左の山もうとはきと 沽 洲

ふく石へ花海と 川 尾 谷

ゆめく大工能成る弓の歌 多 國

集海艦へ落る子 考 他

推乃... 壹月
 酒買... 成屋
 居... 百海
 神... 乾什
 雌... 尾否
 牡丹... 沽海
 上下... 成屋
 後... 為國

片... 為他
 多... 乾什
 生... 尾否
 華... 百洲
 大... 沽海
 乃... 壹月
 既... 成屋
 後... 壹月

新産補をいれ序に明し後け 乾什
虹を裂ヶくり来亥の年 沽洲
狼水喰也 畫くむく尾 毒 各 國
月一 根らるし子 醒 寺 成 屋
茶入 少人 為のそなる しいら 華 百 油
借りく 扇 舟乃 虫の 粉、 藪 考 仙
境 樹子 帶と 委子 せん ちや 星の 壺 月
葦も 多しと ち 出 刃 斗 一 尾 谷

年 初て 二つと 六若ぬむく 屋 乾 什
管 ちん やう ち ち 素 臣の 習 じき 各 國
な 海 ちる ち 吾人 移し ち ち ち 成 屋
荒 神 杯の 神 酒を 振 也 尾 若
蕨 くの 道も せ ねくも ち ち 盛 考 仙
三 心 繰 ち ち ち ち 小 ち ち ち 枝 百 洲

舟と

山秋や秋のつとてまじの秋
百洲

若汐のける月かん有明
泊洲

草の穂も 織櫃の兄々ねて
成屋

下魚斗を呼らる者
多國

魚乃子まゝも
寺仙

一つ手くも
鬘 鹽 舟 尾 谷

今起て人の唇をとり遠し 乾什
心強波うた世は難波津の歌 壺月
鳴釜もいづつ出ても緋縮細 沾洲
女子 産くもあそとけ 百海
目のうらみ 咲哉乃瑞雲 長態手 多國
通杖物活中くうくたふ 成屋
火袋乃ちりもあぬ 笠 尾谷
く 師 志の空ハ 踏志も走らん 考仙

夏の花より 力朝と人馬はみ 壺月
ぬく 娘よりく 彦次 茶 蕪 乾什
喜新月 揚屋ハ 桐屋もく 屋 百洲
叫く 陰く 天物 市 ちり 沾洲
意し 市は 氷砂糖 質 嚙く 成屋
卯一車も 瓶 筆 の花 多國
町人乃 力より 了く さま 乾什
高登の 途さ 後 架て 壺月

埋れ掘ぬ 机 聲 理 音 尾 若

引、也、や、う、も、故、夏、木、叶、は、音、化

今一度吸あつゝを以ての奉て 乾竹

又、此中、と、や、美、山、墨、馬、百、海

百年、此家よりけ落るありあり 沾洲

祢、直、ま、も、あ、う、口、の、西、海、子、成、屋

誰と森子運び森を具十三杖 壺月

、秋、の、編、の、雲、乃、篋、子、う、う、國

阿、や、れ、と、あ、と、尺、と、ま、こ、音、柳、松、道、高、仙

書て貫く、あ、あ、あ、あ、あ、尾、若

高人、お、耳、一、一、あ、う、惜、い、事、成、屋

盆、の、名、と、る、ね、あ、他、美、乃、國、治、例

好、減、これ、丁、子、結、束、花、音、智、あ、國

く、新、ハ、進、花、隆、つ、ま、の、意、壺、月

第六

人	傍	菘	貝
そ	草	心	原
し	の	の	や
ぬ	朝	三	玄
實	し	月	推
つ	あ	や	一
ま	し	く	世
物	乾	孫	の
	乾	一	海
百	什	考	連
海	仙	尾	款
		谷	童
		國	月

うやこまの家のまもる意御して 成屋
 びしよ乃 靨いあげぬ血の敷 沽洲
 招お海し 雲智如滑し 丸切灯 玄國
 冬樹のあらは 縮病阿多の 尾若
 足繰切そと 毛早小 荊 苦酒 百洲
 事し乃と ぬの葉入る 賣 乾什
 不機短ハ 癖ありて ときく 瘡を 考伝
 裾の敷い ぬぬ 表敷 壹月

山乃子一 四十八 坊月の 友 沽洲
 かん年もちい 死又 枯くり 成屋
 玄美の 秋色 色し 瓦 扇の 考伝
 瑞ふし けい 霧む 光を 乾什
 十子 秋夜の 蟬の 葉買 辻 華 御は 壹月
 婦しつと 泊り 秋 板 辻 考仙
 袂し 冬く 草 草 草 考仙
 日 披し 巻し 中し 院 玄 沽洲

雪やん馬尻のりりやう舟と謝尾谷
よその、羽衣乃師を朝日威尾
鳥帽子着て職人屋慕りき 常仙
こけく角豆のこけくこて 百海
神もほい薬乃為なるは 沾洲
道具ねね折る 破人の礎 多國
有明ねね來補さるる 新芸と 乾什
雪やん毛さるる 暮の花咲 尾谷

木さるる子繩打く出た力の秋や 百洲
細黄雀へは運を掃 燐 薑月
藜衣こ三里さるる 伯母う 許 尾谷
いほれハ猫衣飯の食や 乾什
手分地ねね何華ねね何のり 成尾
作あへん 離やん 毫 常仙

第七

文よりか燧の清か細代也 常仙

あやも 概かん 音よりる 彦 壺月

大鼓七のまの 舟子とりく 百洲

若水條く してく 音め 沾海

長え 海月く 青水 羽影く 帆屋

象豆 雲葉の 庭際き 山 丸園

之とれは曇の句しり麻と純尾舌
 惜しくと号し 髪毛 乾什
 換朽し 梅と合るを ぬる 重月
 笠乃 菅 麓 門 木 怪 家 可 百 海
 河 之 愈 して 日 智 法 橋 の 清 黄 梳 沽 洲
 杉 井 之 号 行 雲 之 号 成 屋
 一日て 股 の 抱 け たる 号 雲 春 多 國
 足 道 の 唯 預 難 之 跪 居 る 貴 仙

子 孫 之 名 何 の 桐 曲 居 居 小 乾 什
 亦 中 之 者 考 之 没 子 字 川 尾 谷
 とり 貝 木 出 之 下 色 尚 短 月 百 海
 嘶 然 之 子 乃 博 奕 兒 物 重 月
 遠 海 の 池 之 号 小 打 較 一 成 屋
 平 家 一 流 雷 乃 下 沾 洲
 小 袋 之 号 津 入 之 新 枕 之 國
 人 之 号 戸 之 号 通 經 杉 之 乾 什

物古方くと緋の徳利へ三寸以上考他
物と叫びく日能中千ハ麻底谷
患るらんおまらるらんをのめりぞ治酒
矢矧の者しゆる輝もがしる國
重糸魚能糸まらるるも星能月重月
祠中心けゆ乃 毛落 一包 成屋
種物木のこしー葉も色く出て乾什
しせいとーと 墓も楫実キ百洲

集能類ハ 曉ぬをききり重月
木挽の喧嘩休もとるる考他
棹 させは四の喜あふぬ考は 成屋
親の指ねし子の小ふ休も國
牽て美しとらんまや乃五人 尾谷
舞ておりし人 貝考乃天 治洲

牙ハ

日如く記内とし葎や神一まじ尾谷
 元くふい葉の板くハ音 乾什
 幾士いらつきまハ尻むけて 考他
 豆腐もあふ気 染る葉む竹 壺月
 子畿内ハ月の世内くあまハ山 活洲
 海も事一と民あまハ 雷成屋

〴〵
名はれんとつて一は海峽多國
人や里あぬぢぢぢ版百酒
四十と繼とつて半一は
ぬ里ぬら紋乃 鏡立も 尾谷
春向しからぢぢぢぢぢ成
花子乃むの路いよや 活洲
悔の香乃わき東より鼻背當 壺月
ぢぢぢぢ見る 寺乃大小寺仙

子家もあつてあつてあつて
月子 写海の火燧 時若 多國
不條と通きは毎の梁子て 尾若
名孝ハぢぢぢぢ名ハ 壺月
お毛乃流入子園中 鏡と出 活洲
極のふれたの家 ぢぢぢぢ 乾什
海鬢くのもと手も ぢぢぢぢ 多國
〴〵 面白や葉乃 流り 荆 成屋

東海ハ板津江に於ての刻々たる
又當るやん横にすう藩百海
船く乃曉明はく鉄索壘尾谷
こあり也のめん遠り壘月
蝸牛舟部ゆをねと百いら
日向をむとこつゆきて守百海
一句は^美なる極きん誰じり乾什
けのハ嵐乃をよ枝栗考仙

う
ゆきお斗
かあ東う
根束抄補の宮りつき
減進ハ波に舟もも
花の山岳毛一らありハの耳壘月
地しも窓背あけはのく
成屋
沼洲
尾谷
壘月

此集本て市々小羅致一巻朝経
半上よりぬ夜半ありの月と結ぶの
自然に任まじと調を結ぶ

水鏡新襟さむ花を流る舟 羊素
梅咲せよと結りけり綿 糸團
船掃ふ小真結粧 華明て沽洲
かく所々馬乃去々 勢入 成屋
海 海 海ハ 帳 帳 帳 至 至 至 月 乾 什
三 色 三 三 三 三 の 黄 冷 紙 盤 盤 百 酒

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一門ハ弦白馬家流ヲ修シ乾什
其の産地ハ六月廿七日
茶調茶のくく口張明せり百池
けり時種の上野より見成屋
平生も初にまに掛障子尾若
善目の聲と結く附使志泊洲
と河ふふは清き河釜の月壺月
大工きひせん臨は結令羊豪

同「者」ハ「り」ハ「く」ハ「流」ハ「せん」ハ「杵」ハ「考」ハ「他」
島の中とろはく「い」島尾若
耳鯛は興津の沖と日の出と多國
一ニは糸せん島長街と百洲
松りり茶と候取ハ「り」り字り成屋
九人ハ九人並せん岸の名乾什

く

喜

唱 徳 序 ふ り ころ 可 長 邦 沾 海
 孫 子 板 の り や ころ や 雛 半 成 屋
 白 せ を 打 粉 所 ころ や ま 物 ころ 多 団
 ころ 乃 平 海 よ 思 ころ 童 月 乾 什
 初 年 や 親 親 共 の 松 ころ や ころ 百 測
 赤 貝 ころ り 油 ころ 塩 ころ 花 大 根 常 仙
 局 の 日 や 如 蝶 の や ころ 花 大 根 常 仙

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

静内と人の出る日乃と柳尾若
人の静か流て安か柳
羊素

夏

武節より連摩 尋く 杜鵑 沾洲
月よりおはるも 秋深きも 道橋 然屋
より無くや 練の糸乃 苙若 海多 國
夜蒼の船の 少地乃 ちり 河や 乾什
屋 海やとの おきよ ちり 草の 百洲

あやや一 垂 所 統 皮 衣 無 月
夜柳 ちりの 重さや 洲の上 常記
明星の ねり 低し 海き 高 尾若
隅田川 河も 奥あ ね 本 如く 記 羊素

秋

明れり 鐘ふ 坂 あり 十三 木 沾 洲
葉 背みよ 家子 針 走 ちり 成 屋
星の ねや 枕 ちり ちり 珠 地 多 國

第の節や夕へとせしは此書 乾什
小船や舟船 中村乃風の音 百洲
娘よめ菜充て 女房と 葉草 壺月
渡し場は一人もさうし 秋の音 常化
唐糸あまて 文通し ちり 葵花 尾若
若乃 ぶ日の 偽り 海し ちり 若月 羊素

冬

初雪や玉ころり守 袖香 折 沾 洲

初雪色 粉も 蘇 朶 本 の 光 ち 柳 成 屋
か づ 堀 へ や の 依 草 ち 落 葉 水 園
産 ち せ や 海 倉 ち 新 き 鳥 初 乾 什
木 刀 の 孫 ち け ぶ ち 初 ち くれ 百 海
ち づ ち ち や 玉 ち も 遊 の 一 豆 腐 ち 壺 月
酒 ち や ち ち ち ち ち ち 水 車 常 化
初 雪 や 富 士 背 ち ち ち ち の 瑞 尾 若
塩 漬 や 焼 ち ち ち ち ち ち 乃 若 羊 素

Handwritten text in cursive Japanese (sōsho) on the right page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and the style of the script.

2

集は必跋ありとて何れも
先は誰号の初は成屋に於て
名をとりて没一ある能
しむるは去臺月に何れも
のりて花はくもるは
果るるはちて先生の

海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう

失し松松切のくま縁のくま縁
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう
海もちのまはらうのまはらうのまはらう
馬もちのまはらうのまはらうのまはらう

心算西く初着其より千
年乃古菓了りて
汎如名の戸中納む

應一乾拔

享保二十年乙卯三月

須原屋茂兵衛

寶曆三交自夏三日

おきり

寶曆三癸酉夏五月寫之

北欄亭

榮名

享和二十年丁卯三月

如 之 七 少

卷之二

